

未来をひらく

学校・家庭・地域が一体となって

児童生徒に確かな学力を

平成24年4月17日に、全国学力・学習状況調査が、市立のすべての小中学校で実施されました。今回の調査結果をもとに、本市の児童生徒の現状や学力の課題などについてお知らせします。

● 今回の調査の結果

本市の児童生徒の学力の状況は、全国と比較すると、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均正答率を下回っています。【表1参照】

また、学習状況調査における設問「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対しては、「1時間以上」と回答した割合が、小中学校ともに、全国を下回っています。

一方、「将来の夢や目標を持ってますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」「家の人と学校での出来事について話をしていますか」といった自尊心や規範意識、コミュニケーションなどの設問に対して、「はい」と回答した割合は、全国平均とほぼ同程度、もしくは上回っています。【表2参照】

● 教育委員会のこれまでの取組

教育委員会では「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に基づき、子どもの心の育ちや確かな学力の定着を目指し、「35人以下学級」の推進や、市費講師の配置拡充を行うとともに、教員に対しては「授業改善ハンドブック」「北九州スタンダードカリキュラム」等を作成し、わかる授業づくりを推進してきました。

また、基礎的な学力や学習習慣の定着を図るため、放課後等において、地域、大学生、企業等の協力を得て、子どもたち一人一人にきめ細かな学習支援を行う「学習支援型アフタースクール事業」をモデル実施してきました。併せて生活習慣・学習習慣の定着のため、「音読暗唱ブックひまわり」、「家庭学習のススメ」の配布や「子どもを育てる10か条」の普及啓発を行っています。

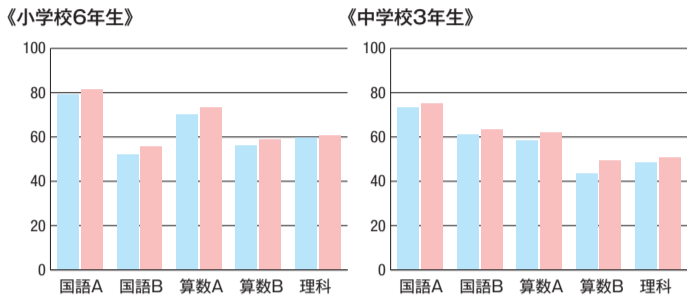
● 調査結果から見えてきた課題と今後の取組

本市の学力の課題については、様々な原因がありますが、その一つとして、家庭学習が定着していないことが、調査の結果から見えてきました。全国的にも学力上位の県では、学力向上策と生活習慣・学習習慣の定着が両輪としてうまく機能しているという分析結果も出ています。確かな学力を定着させていくためには、学校での取組とともに家庭学習を充実させることが必要です。

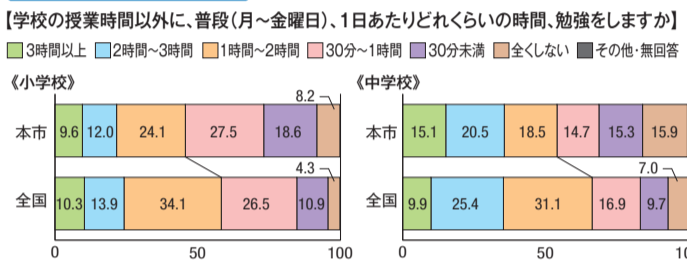
ご家庭でも学習できる環境や基盤をつくるため、声かけやご協力をお願いします。

教育委員会は、これまでの取組をさらに充実させるために、学校、家庭、地域の連携、協力のもと、学力向上に向けて粘り強く取り組んでいきます。

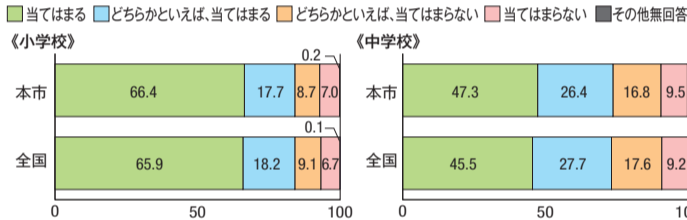
学力調査より【表1】 24年度本市平均正答率 24年度全国平均正答率



学習状況調査より【表2】



将来の夢や目標を持っていますか



確かな学力の定着のために、家庭でもご協力をお願いします!

学習できる環境づくりを

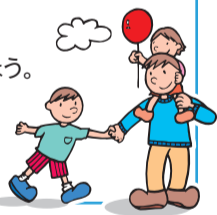
- 宿題や予習・復習をみてあげましょう。
- 家庭で学習する時間を決めましょう。
- TV視聴やインターネットなどの使用についてルールをつくりましょう。

学習するための基盤づくりを

- 基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。
- 自然や地域と関わる体験を大切にしましょう。
- 読書をする機会を増やしましょう。
- 家の手伝いをさせましょう。
- 将来の夢や希望などについて語り合しましょう。

子どもへ励まし声かけを

- 「よくできたね。」 ● 「きれいにかけたね。」
- 「このごろ頑張っているね。」



見逃さないで! 子どもの小さなサインを

いじめは、決して許されることではありません。しかし、いじめは、どの学校でもどの子どもにも起こりうる問題です。

教育委員会では、平成24年9月に「いじめに関するアンケート調査」を実施し、その後の担任などによる「面談」で、全児童生徒からいじめ等についての聞き取りを行いました。その調査の結果、207件がいじめと認知され、その多くは解消または一定の解消をしています。

いじめられている子どもは、家族に心配をかけたくないという思いから、打ち明けられない場合も多いと思われます。しかし、何らかのサインを発しているはず。助けを求める子どものサインを察知し、身近にいる大人が積極的に関わる必要があります。いつもとの違いを敏感に感じることで、いじめの早期発見につながります。

教育委員会では、今後もいじめ問題の未然防止と早期発見・早期対応に努め、いじめが解消するまで継続した対応を行っていきます。



いじめられている子どものサインをキャッチ

① 子どもと過ごす時間をつくる。

家族で調整して、食事の時間を合わせたり、就寝前などの時間を利用したりして、学校の話や友達、将来について話す時間をつくりましょう。

② 子どもの様子にアンテナを張る。

日常生活のリズム、友人関係、持ち物、家族との関係の変化をキャッチしましょう。変化に気付くためには、子どもが今、何に関心をもっているのか、どんな勉強をしているのか、どんな本を読んでいるのかなど、日頃から子どもの様子に気を配っておくことが大切です。

子どもの発するサインに気づいたら

子どもの発するサインに気付いたら、苦しい気持ちや孤立感、無力感等を、まずしっかりと受け止め、心に寄り添うことが必要です。気になることがありましたら、学校へ遠慮なく相談してください。

下記の関係機関でも、悩みの相談を受け付けています。

いじめに関する相談ダイヤル

- 24時間子ども相談ホットライン 093-881-4152
- 子どもの人権110番 0120-007-110 (平日 8時30分～17時15分)
- ヤング・テレホン 093-881-7830 (平日 9時～17時45分)

教育の現場から

第5回

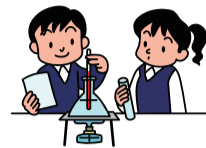
企業の子どもの教育に活かす ～小学校応援団による支援事業～

平成23年10月、北九州市の明日を担う子どもたちの健全な育成を目指し、地元を中心とした約150社が「北九州の企業人による小学校応援団」を結成しました。このように、経済界が本市の教育を支援していただけることは大変心強いことです。現在、市内11のモデル校で事業に取り組んでいます。

小学校応援団からは、「学校応援プロジェクト」として、次の4つの支援をいただくことになっています。

- ①児童に対する出前授業・体験学習支援
- ②PTA人材確保・活動支援
- ③親学支援
- ④教職員の研修支援

今回は、モデル校での特色ある取組を紹介します。



中井小学校

小倉北区

新日鐵住金(株)八幡製鐵所による「空き缶リサイクル」学習

6月7日に、リサイクル活動へ関心を高めてもらうことを目的として、新日鐵住金株式会社八幡製鐵所生産企画室マネジャーの河野捷紀氏に総合的な学習の時間「中井リサイクル隊」の学習でご指導いただきました。

本校では、4年生の総合的な学習の時間において環境教育を主として取り組んでいます。今回の出前授業では、地球の3分の1は鉄でできていることや、スチール缶が橋や鉄道のレールに再利用されること、また「道に落ちている缶も、ごみではない。あらゆるものが資源です。みんなも意識して取り組んでほしい。」などのお話をいただきました。

子どもたちは、自分たちの身近な環境について学習を深め、さらに自分たち一人一人ができることを考えるきっかけになったようです。

河野氏には、引き続き本校が取り組むリサイクル活動へご協力いただき、子どもたちの実践力を育てていきたいと考えています。



中原小学校

戸畑区

シャボン玉石けん(株)による「地域の環境を考える小学生石けん教室」

7月17日に、夏休みの自由研究に向けて自己研究の観点を見つける目的で、「地球の環境を考える石けん教室」を開催しました。シャボン玉グループ通信販売部お客様相談室の前田博昭氏を講師として迎え、3年生から6年生の30名が参加して、身近にできるエコ活動について考えました。



環境や人体にやさしいシャボン玉石けんのDVDを視聴した後、蛍光増白剤を使用した石けんをブラックライトを用いて見分けたり、天然素材の石けんはお酢に反応することなどを、実験をしながら学ぶことができました。

子どもたちからは、「石けんの見分け方がよくわかった。」「地球がきれいになってほしいです。」などの感想が聞かれ、今回の出前授業は、子どもたちが環境問題について関心を深める有意義な時間となりました。

あやめが丘小学校

戸畑区

安川電機(株)による「走り方教室」

10月9日に、第30回オリンピックロンドン大会にも選手を送り出している安川電機株式会社陸上部の目原弘一氏と岡田徹氏を講師として迎え、陸上記録会を目前に控えていた6年生を対象に、「走り方教室」を実施しました。

1時間という限られた時間ではありましたが、良い走り方のポイントを丁寧に教えていただきました。その後、「腿あげ」や「腕ふり」のアドバイスを踏まえた反復練習を行い、100メートル走の記録を計測しました。走り方教室で学んだ後は、多くの子どもたちの記録が向上し、成果を実感することができました。

最後に講師の模範走を見せていただき、子どもたちは、美しい走りを見入っていました。陸上記録会に向けて練習に励んでいる子どもたちにとって、とても有意義な体験学習でした。



大原小学校

八幡西区

西鉄バス北九州(株)による「バスの安全な利用とマナー教室」

今夏、「北九州の企業人による小学校応援団」の紹介で、本校教員の研修を西鉄バス北九州香月営業所で受け入れていただいた縁から、9月20日の「バスの日」に、本校5年生を対象とした「バスの安全な利用とマナー教室」を行いました。

バスを間近で見学し、実際にバスに乗車したことで、安全やマナーについて興味・関心をもって学ぶことができました。また、運転席に座った子どもたちは、運転手には死角があることや、ミラーなどで安全確認を行うことによって安全なバスの運行ができることを知り、バスの運転手さんの大変さにも気付くことができました。

実際の大型バスを校内に乗り入れて行った出前授業は、日頃からバスを利用する機会が多い子どもたちにとって、運転手さんへの感謝の気持ちが育まれ、交通安全や乗車マナーについて学ぶ良い機会となりました。



お知らせ

教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

教育委員会では、「子どもの未来をひらく教育プラン」等に掲載された施策の進捗状況について、自己点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、ホームページで公表しています。平成23年度の評価結果は、A評価(大変順調)が「特別支援教育の充実」「地域と連携した学校運営の実現」の2施策、B評価(順調)が「心の育ちの推進」「確かな学力の向上」など13施策でした。この結果を今後の施策に活かし、効果的な教育行政の推進に努めてまいります。



■点検・評価の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。 [トップページ](#) > [くらしの情報](#) > [子育て・教育](#) > [小・中・特別支援学校](#) > [教育委員会の取組み](#) > [北九州市教育委員会事務の点検・評価](#)

学校開放週間を実施しました！

教育委員会では、学校教育への理解を深めていただくため、学校開放週間を平成24年10月27日～11月7日に実施し、各園・学校の取組を多くの保護者や地域住民の方々に見学していただきました。

その中から、特別支援学校北九州中央高等学園の取組をご紹介します。

北九州中央高等学園は、軽度の知的障害がある生徒の就業による社会参加と自立を目指した教育活動を行っており、希望する生徒の就職率は高い水準となっています。

特色ある教育活動として、就業に必要な態度や技能を身に付けるための「作業学習」があり、製品をつくるだけでなく、その製品を実際に販売するという学習を行っています。

今回は、学校の取組の一つとして「特別販売学習」を実施しました。生徒たちが一生懸命製作した製品は大好評で、パン販売や喫茶コーナーは順番待ちの列ができるほどの人気でした。多くの方々にご来校いただき、生き生きとした生徒の様子をご覧いただきました。

このような特色ある北九州中央高等学園の教育活動や取組が評価され、豊かな人間性育成のために貢献している学校等を表彰する「第43回博報賞」(博報児童教育振興会主催)を受賞しました。今後も、目標である就職率100%を目指して、教育活動に取り組んでいきます。



販売学習の様子



パン製造の様子

『嘉代子桜・親子桜』の植樹

北九州市では、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に伝える取組として、長崎への原爆投下で亡くなられた林嘉代子さんを偲び、平和への願いが込められた桜の苗木の植樹を行っています。

今年度は30校の小学校で植樹が行われました。学校では、植樹にあたり、嘉代子桜の由来の説明、読み聞かせ等が行われました。その後、代表児童による植樹や平和への誓いの言葉の発表がなされました。長崎に修学旅行に行った学校も多く、桜の植樹に当たっての思いは深いようです。

今は小さな苗木ですが、これから成長し平和への思いのこもった美しい花を咲かせることでしょう。



穴生小学校

学校支援地域本部事業

保護者・地域の皆さん、学校の教育活動を応援しましょう！

この事業は、教員の子どもと向き合う時間の拡充や、地域の教育力の活性化を図るため、各実施校に「学校支援地域本部」を設置し、地域の協力のもと、学校の教育活動を支援するものです。(H21年度より実施)

各本部に配置された地域の実情に詳しいコーディネーターが、学校のニーズに応じたボランティアの発掘や連絡調整を行い、それにより、学校は地域から様々な支援を得ることができます。

～学校からの声～

- ボランティアの協力により、教員が教育活動により力を注ぐことができ、子どもと接する時間が増えた。その結果、子どもたちがきめ細かな教育支援を受けることができた。
- 多くの人との関わりや多様な体験・経験を通して、子どもたちの規範意識やコミュニケーション能力の向上に繋がった。
- コーディネーターのおかげで、地域からのボランティア登録が大幅に増加し、教育活動の幅が広がった。

教育委員会では、今後も本事業の実施により、学校の教育活動を支援する体制づくりを推進します。



学校支援ボランティアがプールの監視や声かけをしている様子

【平成24年度実施校】(※下線は、H24年度から新規実施。)

- 小学校(9校)…藤松、門司中央(門司)、桜丘、三郎丸(小倉北)、吉田(小倉南)、高須(若松)、萩原、本城(八幡西)、あやめが丘(戸畑)
- 中学校(5校)…篠崎(小倉北)、湯川、横代(小倉南)、高見(八幡東)、則松(八幡西)

第8回「イングリッシュコンテスト北九州」

平成24年10月6日、英語によるスピーチコンテストがウェルとばた他で開催されました。このコンテストは、①本市中学生が、より一層英語への興味・関心を高め、コミュニケーション能力の向上を図ること、②事前練習等でALT(外国語指導助手)を活用し、より実践的な英語力の向上を図ることを目的としています。



本年度は過去最多の290名の生徒がコンテストにエントリーしました。コンテストは課題部門2会場と暗唱部門8会場に分かれて行われました。そして各会場以最優秀賞各1名と優秀賞数名が選出されました。生徒は日頃の成果を十分に発揮し素晴らしいスピーチを披露しました。

このコンテストに多くの生徒が参加し、英語によるスピーチ活動が全市の中学校に広がっていくことを願っています。

■ 暗唱部門の題材

次の3つの題材の中から1つを選択し、暗唱して発表。

- (1) The Tortoise and the Hare
- (2) Walt Lives on in Mickey
- (3) Binti the Gorilla

■ 課題部門のテーマ

次の3つのテーマの中から1つを選択し、自作の原稿を暗唱して発表。

- (1) My best friend (親友のよいところを紹介するとしたら)
- (2) What do you want to be, when you grow up? (将来どんな仕事に就きたいか)
- (3) What superpower would you like to have? (特別な力をもつことができるとしたら、どんな力を手に入りたいか)

省エネ王コンテスト及び3R推進活動で表彰されました!!

市民が3R活動や低炭素・省エネルギー活動に取り組むきっかけとして、「省エネ王コンテスト」と「3R活動推進表彰」が実施されました。特に素晴らしい取組を行った学校・団体等が平成24年10月13日のエコライフステージ2012で表彰されました。

「省エネ王コンテスト」は、夏休み期間中に省エネに取り組んだ個人等を表彰するもので、小学生の部は教育委員会と連携して実施されました。最も多くの児童が取り組んだ門司中央小学校が、最優秀学校賞として表彰されました。

また、廃棄物の発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)・再生利用(リサイクル)の3R(スリーアール)活動を積極的に推進している、個人・団体・事業者・学校などを表彰する「北九州市3R活動推進表彰」においては、市立学校2校が表彰されました。



「省エネ王コンテスト」

最優秀学校賞 門司中央小学校

「北九州市3R活動推進表彰」

3R活動推進賞「リサイクル部門」
3R活動推進奨励賞

井堀小学校
中原小学校

ワン・フォー・オール オール・フォー・ワン!

教育委員 野畑 昭彦

私が教育委員の重責を担うことになって、早いもので、丸3年が経過しました。以前から、子どもの健全育成のためには、保護者や教員、地域住民等が、それぞれの役目をしっかりと果たしたうえで、互いに力をあわせていくことが大切だと思い、微力ながらも小学校のPTA会長、市PTA協議会副会長等として活動してまいりました。平成21年に北橋市長から「経営者の視点で教育行政へ意見や提案を行っていただきたい。」との要請があり、教育委員に就任いたしました。



この職について実感したのは、教育委員が関わる教育行政の守備範囲の広さです。「教育計画の策定・進捗管理」「教員の採用・任免・人事異動」「教科書の採択」「校舎や図書館等の施設整備」「通学区域の設定」「教育情報の公開」等、年間100件を超える案件を、月に2回開催する教育委員会会議で審議しているのです。民間企業での経験しかない私が議論に主体的に加わっていくためには、勉強することが余りに多く、気の休まる暇はありません。常に市内外の教育関係情報をキャッチすることを意識するのはもちろん、審議される案件のポイントは何か、どうすればより効果的な取組となるのかなど、企業経営者として教育行政に関わっていくことを常に心がけるようにしています。

私と共に教育委員会を構成している他の教育委員の皆さんも、非常に教育問題に対する意識の高い方々であり、元校長、医師、スクールカウンセラー、PTAと、それぞれの立場からの議論が熱を帯び、年々、会議に費やされる時間が長くなっているような気もしています。

プライベートでは、PTA活動に共に取り組んでいた仲間たちと結成したバンドで、地元の門司港をはじめ各所でライブを開催しており、その活動歴は15年を超えました。私にとって、オフタイム充実のための貴重な活動であるとともに、学校関係の情報を得ることができる場ともなっています。

バンドでは、ドラムを担当していますが、私のスティック捌きが乱れると、バンド全体のパフォーマンスが低下します。逆に、バンドのボルテージの高まりにドラム演奏が引っぱられることもあります。同じように、教育委員会も6名の委員とそれを支える事務局職員が、気持ちをひとつにして連携していくことが大切だと感じています。

いじめ問題をはじめ、子どもを取り巻く現状は、多くの課題を抱えています。ひとつひとつの課題を克服しつつ、新たな教育施策への取組を通じて、教育日本一を実感できる環境づくりに向けて、「ワン・フォー・オール オール・フォー・ワン」(一人はみんなのために、みんなは一人のために)の精神で、教育委員として今後とも力を注いでいく覚悟です。市民の皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願ひします。

教育委員行政視察報告

平成24年度は、2班に分かれて、高松市、京都市を訪問しました。

第1班は、11月19日・20日に、「サンクリスタル高松」、高松市立小中一貫校「高松第一学園」の2教育施設を、川原委員長、シャルマ委員、伊藤委員が視察しました。

サンクリスタル高松は、市立歴史資料館・図書館、郷土の偉人である菊池寛の功績を展示した菊池寛記念館の複合施設であり、3館が連携した「サンクリスタル学習」を行っています。シャルマ委員は、「本市にも一体型ではないが同様の施設があり、サンクリスタル学習の様に各施設が連携し魅力を高め合うことで、より活きてくるという可能性を感じた。」との感想でした。



「高松第一学園」で説明を受ける教育委員。右側(奥より)伊藤委員、川原委員長、シャルマ委員

また、高松第一学園は、施設一体型小中一貫教育校であり、9年間を見通した教育を推進しています。川原委員長は、「小中の積極的な連携により、学校生活の安定化や学習指導の充実が図られており、この取組と成果は大変参考になった。」とのことでした。

第2班は、11月21日・22日に、野畑委員、吉田委員、柏木教育長の3名が、京都市立小中一貫校「凌風学園」などを視察するとともに、京都市教育委員会事務局で、市民ぐるみ・地域ぐるみで推進している京都市方式の各種教育プログラムについて伺いました。

中でも、保護者や地域住民が参画し、文化芸術・郊外活動や学力向上、部活動等に子どもたちとともに取り組んでいる「学校運営協議会」は、全国最多の188の学校・園で設けられ、学校の応援団として活発な活動をされています。吉田委員は「教育に対する京都市民の熱意を感じることができた。子どもたちの豊かな学びに向けた、学校・家庭・地域におけるマンパワーの重要性を改めて認識した。」との感想でした。

今後、視察により得られた情報を活かし、本市の教育行政を推進してまいります。



「凌風学園」を視察する野畑委員(左)と吉田委員(右)

戸畑高等専修学校学習発表会

第23回「ファッションショー」開催

12月2日、ウェルとばた大ホールにて本校の学習発表会第23回「ファッションショー」を開催しました。テーマを『継(けい)～伝統と技 新しい風を感じて～』とし、6月から取り組みました。



作品は、1年生は綿素材のカジュアルウェア、2年生はウール素材のテーラードスーツ、3年生はフォーマルウェアと、それぞれの学年らしさを発揮しつつ、生徒一人一人が自らデザインし、製作し、モデルとなって舞台上に立ちました。



当日は、日頃見られない生徒の生き生きとした顔、緊張感のある動き、終わった後の3年生の涙と、達成感を味わうことのできる学習発表会となりました。

鷹の巣幼稚園

平成24年度「教育力向上福岡県民運動優秀実践校」として表彰されました (平成24年11月25日)

鷹の巣幼稚園では、地域の「鷹見楽太鼓」保存会の方を講師に迎え、年間を通して太鼓に取り組み、その成果を地域の「穴まつり」で披露するなど、体験活動を重視した取組を行っています。



表彰式の様子

「鷹見楽太鼓」を通じた交流で、地域への愛着心を育むとともに、あいさつや礼儀作法等の社会性・規範意識などを学ぶことができ、また、地域の年長者の会「長生会」の教育力を活かした触れ合い活動を通して、年長者と温かい交流を行っていることが評価され、今回の表彰に至りました。



「鷹見楽太鼓」の披露